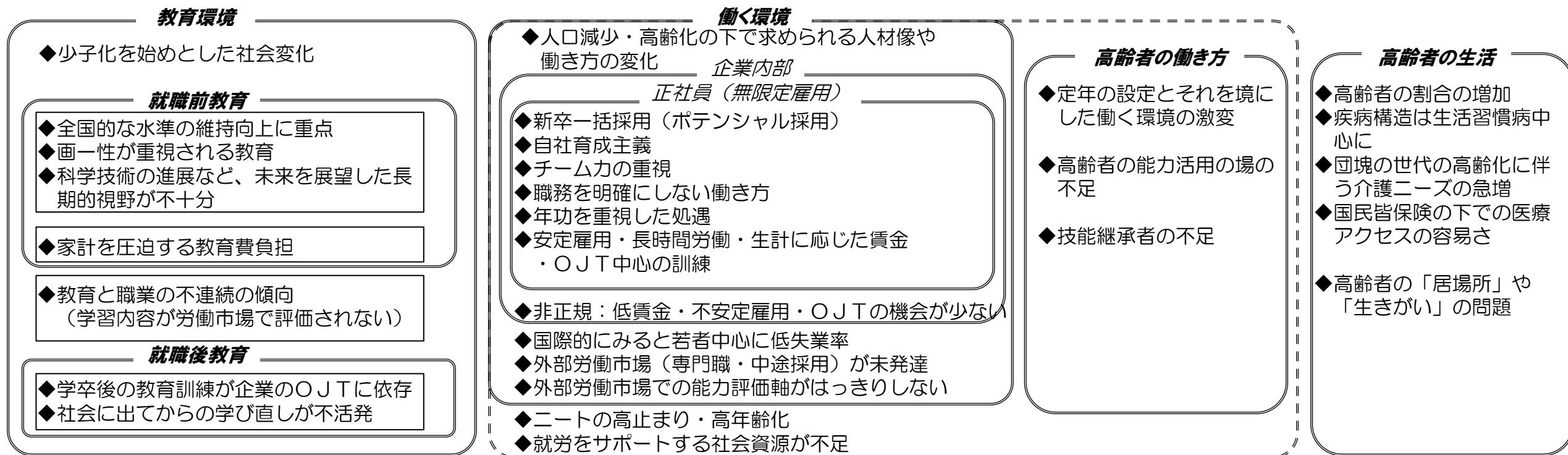


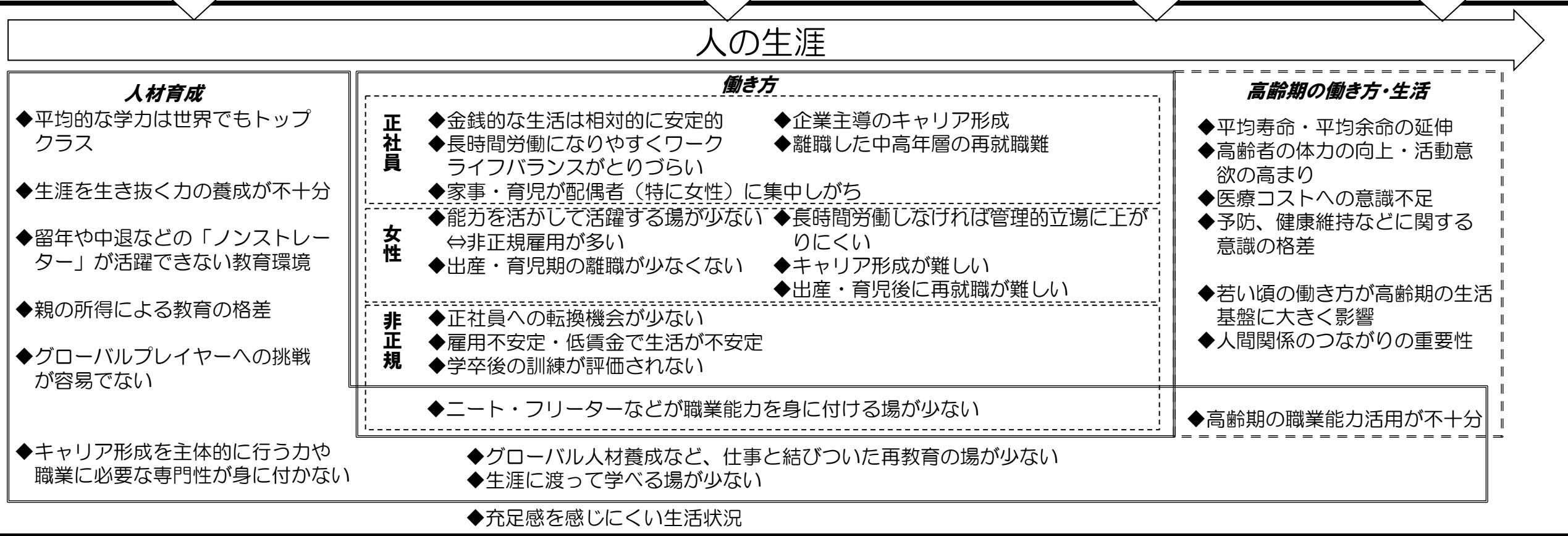
「人の活躍」に関する現状マップ（イメージ図）

戦後高度成長期を経て培われてきた経済社会モデルに最適化した人材育成と労働市場

社会のしくみ



人の現状



社会の課題

- グローバル化
- 少子化・人口減少
- 地域の存続
- 安定的な経済成長
- 格差の拡大
- 社会保障負担の増加

未来を見据えた「人材育成」に関する論点

現状

教育環境

◆少子化を始めとした社会変化

就職前教育

- ◆全国的な水準の維持向上に重点
- ◆画一性が重視される教育
- ◆科学技術の進展など、未来を展望した長期的視野が不十分

- ◆家計を圧迫する教育費負担

- ◆教育と職業の不連続の傾向
(学習内容が労働市場で評価されない)

就職後教育

- ◆学卒後の教育訓練が企業のOJTに依存
- ◆社会に出てからの学び直しが不活発

人材育成

- ◆平均的な学力は世界でもトップクラス
- ◆生涯を生き抜く力の養成が不十分
- ◆留年や中退などの「ノンストレーター」が活躍できない教育環境
- ◆親の所得による教育の格差
- ◆グローバルプレイヤーへの挑戦が容易でない
- ◆キャリア形成を主体的に行う力や 職業に必要な専門性が身に付かない
- ◆グローバル人材養成など、仕事と結びついた再教育の場が少ない
- ◆生涯にわたって学べる場が少ない
- ◆ニート・フリーターなどが職業能力を身に付ける場が少ない

○「人材育成」に関する論点

- **グローバル化や科学技術の進展する社会に求められる人材の姿**
- **若者を中心にだれもが能力を発揮し活躍できるための教育・人材育成**
 - ・教育の機会の確保などを通じた格差の再生産の回避
 - ・キャリアパスから脱落しても、再チャレンジすることができるための人材育成
 - ・職業につながる教育・人材育成
- **未来の日本社会を牽引する人材の育成**
 - ・主体的なキャリア形成を支える教育・人材育成
 - ・社会の変化に対応したスキルの転換機能
 - ・若者が積極的にリスクにチャレンジできるための社会の在り方